

2020年1月6日

原子核談話会事務局 新倉潤

「核物理委員会委員の選挙について」

原子核談話会の執行機関である核物理委員会委員の任期が2020年3月31日をもって終了します。原子核談話会規約第7条の規定により、次期委員の選出を下記の要領にて行います。別紙に資料として、現在の委員名簿と今回の候補者一覧と推薦・抱負文を添付しましたのでご参照下さい。

1. 選出人数 : 10名
2. 任期 : 2020年4月1日から2022年3月31日(2年間)
3. 被選挙資格 : 事前に立候補した、または推薦された候補者

[投票方法]

- 5名連記
- WEBシステムによる電子投票を行います。
- 原子核談話会に登録されているメールアドレス毎に投票権を与えます。
- 別途送付されるメールにあるリンクからシステムにログインし、投票してください。
- 投票は一回で確定します。投票完了後の投票内容変更やリセット等は事務局でもできませんのでご注意ください。
- ご不明な点は、核談事務局 (kakudan@rcnp.osaka-u.ac.jp) までお問い合わせください。

投票締切日：令和2年1月27日(月) 22:00

添付書類

- (資料1) 現 核物理委員会委員名簿
- (資料2) 核物理委員会 候補者・推薦者リスト
- (資料3) 核物理委員会 抱負文・推薦文

(資料1) 現 核物理委員会委員名簿

核物理委員長

永江知文（京都大学）

副委員長

青井考（大阪大学RCNP）

幹事（* 補充委員（注1））

川畑貴裕（大阪大学）

関口仁子（東北大学*）

委員（* 補充委員（注1））

上坂友洋（理化学研究所）

小沢恭一郎（KEK）

櫻井博儀（東京大学/理化学研究所）

下浦享（東京大学CNS）

須田利美（東北大学）

田中万博（KEK）

田村裕和（東北大学）

中村隆司（東京工業大学*）

野海博之（大阪大学RCNP*）

若狭智嗣（九州大学*）

和田道治（KEK）

ex-officio委員（注2）

延與秀人（理化学研究所 仁科加速器研究センター長）

徳宿克夫（KEK素粒子原子核研究所長）

中野貴志（大阪大学RCNPセンター長）

連携委員（注3）

齋藤直人（J-PARC）

注1 補充委員は選挙後、地域や分野などを考慮して委員に加えられました。

注2 ex-officio委員は共同利用研究所の所長・センター長として委員会に参加して頂いております。自動的に委員となりますので被選挙資格はありません。

注3 連携委員は、上記3つの施設の代表の役目を兼ねる委員です。施設の長が原子核談話会会員の場合、被選挙権を持ちますが、当人が選挙で選ばれなかった場合には連携委員として委員になっていただきます。施設の長が原子核談話会会員でない場合には、自動的に連携委員となっていただきます。連携委員は、ex-officio委員と異なり、委員会への出席にあたって代理を指名できます。

(資料2) 核物理委員会 候補者・推薦者リスト

立候補/ 推薦	候補者 氏名	候補者 所属・職	推薦者 氏名	推薦者 所属・職
推薦	青井 考	大阪大学RCNP・教授	上坂 友洋 野海 博之	理研仁科センター・主任研究員 大阪大学RCNP/KEK素核研・教授
推薦	上坂 友洋	理研仁科センター・主任研究員	青井 考	大阪大学RCNP・教授
推薦	大西 宏明	東北大学ELPH・教授	小沢 恭一郎	KEK素核研・准教授
推薦	小沢 恭一郎	KEK素核研・准教授	野海 博之 田中 万博	大阪大学RCNP/KEK素核研・教授 KEK素核研・シニアフェロー
推薦	川畑 貴裕	大阪大学理学研究科・教授	野海 博之 青井 考	大阪大学RCNP/KEK素核研・教授 大阪大学RCNP・教授
推薦	櫻井 博義	理研・主任研究員/東大・教授	青井 考	大阪大学RCNP・教授
推薦	澤田 真也	KEK素核研・教授	成木 恵 大西 宏明 田村 裕和 野海 博之	京都大学理学研究科・准教授 東北大学ELPH・教授 東北大学理学研究科・教授 大阪大学RCNP/KEK素核研・教授
推薦	須田 利美	東北大学ELPH・教授	上坂 友洋 青井 考	理研仁科センター・主任研究員 大阪大学RCNP・教授
推薦	関口 仁子	東北大学理学研究科・准教授	上坂 友洋	理研仁科センター・主任研究員
推薦	田中 万博	KEK素核研・シニアフェロー	永江 知文 小沢 恭一郎 田村 裕和	京都大学理学研究科・教授 KEK素核研・准教授 東北大学理学研究科・教授
推薦	田村 裕和	東北大学理学研究科・教授	野海 博之 田中 万博	大阪大学RCNP/KEK素核研・教授 KEK素核研・シニアフェロー
推薦	永江 知文	京都大学理学研究科・教授	成木 恵 田村 裕和 野海 博之 田中 万博	京都大学理学研究科・准教授 東北大学理学研究科・教授 大阪大学RCNP/KEK素核研・教授 KEK素核研・シニアフェロー
推薦	中村 哲	東北大学理学研究科・教授	永江 知文	京都大学理学研究科・教授
推薦	中村 隆司	東京工業大学理学院・教授	上坂 友洋 青井 考	理研仁科センター・主任研究員 大阪大学RCNP・教授
推薦	野海 博之	大阪大学RCNP/KEK素核研・教授	小沢 恭一郎	KEK素核研・准教授
推薦	和田 道治	KEK素核研・WNSCセンター長	宮武 宇也	KEK素核研・教授

青井 考 (大阪大学RCNP・教授)

核物理委員候補に推薦頂きありがとうございます。

現在の日本の核物理関連分野は世界をリードする研究施設を数多く持ち、大規模施設から中規模、小規模施設に至るまで、それぞれ特徴のある研究を推進し世界を牽引しているという好機にあります。

各施設がそれぞれの役割を果たして最大限の研究成果をあげ、未来に発展させていけるよう尽力できればと思います。

推薦者 上坂友洋 (理研仁科センター・主任研究員)

青井さんはガンマ線分光の専門家としてRCNPと理研をまたいで活躍されており、分野に偏らない公正な視点をお持ちです。現委員会では副委員長として貢献をされており、次期委員会にも必要な方だと考えます。

推薦者 野海 博之 (大阪大学RCNP/KEK素核研・教授)

青井氏は、RCNPの副センター長として、また、サイクロトロン実験施設の責任者として共同利用実験の充実と発展に尽力され、ガンマ線検出器を用いた国際共同研究プロジェクトを率いて新しい利用者を開拓されている。核物理副委員長として核物理コミュニティに貢献してこられたが、核物理の次期将来計画を策定する上で中心的役割を果たすべき氏には、引き続き、尽力してもらいたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

上坂 友洋 (理研仁科センター・主任研究員)

核物理委員に推薦いただき光栄に思います。ここ2年理研の用務が集中したためあまりコミュニティへの貢献ができずにおりましたが、「年季」がこの3月にあけるので4月からは以前通りできそうです。

コミュニティの悲願であるRIBF高度化計画実現を初めとして、原子核物理学発展のために微力を尽くします。

推薦者 青井 考 (大阪大学RCNP・教授)

核構造・核反応研究の分野で中心となって活躍している研究者で、RIBFを牽引するとともに様々な加速器施設で研究を展開されています。現在でも核物理コミュニティの運営に深く尽力されており、核物理委員にふさわしい方といえます。

大西 宏明 (東北大学ELPH・教授)

次核物理委員会候補へのご推薦ありがとうございます。

J-PARC、RIBFが稼働してから10年以上が経過しました。これらの世界最強の研究施設を使い、数多くの研究成果が生まれてき多ことは、皆様ご存知のとおりです。一方で、運営費交付金の削減、電気代の高騰などで十分に実験ができない、ビームタイムを獲得することができないなど、目の前には様々な不安材料が存在しますことも事実です。さらに最近では、博士過程に進む学生の減少という、大問題（これは原子核業界というより、日本の学术界全体の問題ではありますが）に直面しております。これらの状況を打破するために必要なはなんなのでしょうか？

現在、RIBFの高度化、J-PARC拡張が実現に向けた議論が盛んに行われています。これらのプロジェクトを推進していくことは当然必要な重要課題であると思います。また、その実現に向け努力していく覚悟です。しかしながら、それだけで良いのでしょうか？原子核分野では、RIBFやJ-PARCにみならず、共同利用研であるRCNP、電子光をはじめ、多くの加速器がアクティブに稼働し研究成果は出し続けています。我々の使命は、10年後、いや20年後のこれら国内研究拠点のあり方を含め、原子核物理の「明るい未来」を積極的に作り出していく、また、その土台を形成していく事と考えます。我々がどれくらい「明るい、魅力的な未来」を発信していけるかが勝負であると思います。

当然、主役は原子核談話会会員の皆様です。私が次世代計画を作るための一助となれば幸いです。

推薦者 小沢 恭一郎 (KEK素核研・准教授)

大西宏明氏は、ELPHやLEPSでのハドロン実験物理を高い見識から強く推進し、多くの物理成果をあげられています。また、J-PARCでの実験やハドロンホール拡張も中心となって推進されており、海外での経験も豊富で、今後のハドロン物理の将来を大局的に検討するうえで、余人をもって代えがたい人材であり、核物理委員として推薦します。

小沢 恭一郎 (KEK素核研・准教授)

核物理委員に推薦頂きありがとうございます。

原子核やハドロンは、知れば知るほど不思議な存在で、他に類を見ない極めて面白い研究対象だなあ、というのを実感する今日この頃です。

極限状態での原子核・クォーク物質はどうなっているのだろうか、我々の物質や宇宙はいかにして構成されてきたのだろうか、など、これから解明すべき多くの謎があり、広大な研究フィールドが目前に広がっているように感じます。また、不安定核、中性子過剰核、ストレンジ核、ハドロン物理などを基本に、超冷中性子から高エネルギー重イオン衝突まで多種多様な研究対象をどん欲に取り入れて、研究領域を広げていくのが、原子核物理学の大きな特徴だと思います。

私自身としては、核物理委員として、そのような多種多様な研究を、なるべく現場の声を反映させる形で、支えて発展させていきたいと考えています。

特に、これまでの研究生活で培った様々な研究者との横のつながりを重視して、研究を飛躍的に発展させる実験施設の実現、検出器技術の開発に真剣に取り組みたいと思います。

よろしく願いいたします。

推薦者 野海 博之 (大阪大学RCNP/KEK素核研・教授)

小沢氏は重イオンや高エネルギー陽子ビームから光子ビームを用いたハドロン物理を専門に世界で活躍されてきた。近年は、とくに、J-PARCの高運動量ビームラインの建設とこれを用いた国際共同研究の推進に中心的な役割を果たしてこられた。氏は、核物理の将来を担う中心人物の一人であり、引き続き、核物理分野の発展と将来計画実現に力を発揮してもらいたいため、核物理委員の候補者として強く推薦する。

推薦者 田中 万博 (KEK素核研・シニアフェロー)

小沢さんは、我が国を代表する若手実験核物理学者です。これまでも長らく核物理委員を務められるなど、その研究者としての見識には定評があります。まさにこれからJ-PARCで大実験を推進していかねばならず、大変忙しいとは思いますが、若手研究者の代表として、これまで通り核物理委員をお願いしたいと思います。

川畑 貴裕 (大阪大学理学研究科・教授)

核物理委員に選出された際には、原子核物理分野の発展に微力を尽くしたいと思います。大学から選出された委員として、人材の供給源である大学と大型装置を有する研究所の協力関係をさらに強めていきたいと思っています。

また、若手の育成にも積極的に貢献していきます。一大学教員として学生教育や博士課程進学率向上に地道な努力を続けるとともに、核物理委員としてサマーチャレンジや高大連携にも積極的に取り組み、原子核物理分野が大学院生・学部学生を惹きつける魅力的な分野であり続けられるよう取り組んでいきます。

私は来年度に物理学会の実験核物理領域代表を拝命することになっております。物理学会の運営にもしっかりと参画し、分野の外に対して原子核物理分野の存在感を示していきたいと思っています。

推薦者 野海 博之 (大阪大学RCNP/KEK素核研・教授)

川畑氏は原子核のクラスター状態や宇宙核物理分野の研究を中心に幅広く活躍され、若手や学生の指導には殊に定評がある気鋭の研究者である。核物理の将来を背負う研究者の一人として大きな期待を寄せている。引き続き、核物理の分野の発展と将来計画実現に力を発揮してもらいたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

推薦者 青井 考 (大阪大学RCNP・教授)

様々な加速器施設を舞台に、核構造・天体核研究を幅広く展開されており、教育面においても光彩を放たれています。若手・中堅の視点から日本の核物理の方向性を議論して頂ける方として核物理委員に推薦いたします。

櫻井 博儀 (東京大学理学系研究科・教授 / 理研仁科センター・主任研究員)

国内の原子核物理学の実験研究をさらに発展させ、原子核物理学実験のコミュニティを強化するために貢献する。国内外ともに科学技術行政の重心は、基礎科学研究から社会に役に立つ研究へと変化しつつある。この大きな流れの中で、核物理研究で多くの優れた成果を生み出すことが一丁目一番地の最重要なポイントであり、同時に核物理研究の社会の位置付けを主張していく必要がある。一方、独法化した大学・研究所は個々の科学的成果や研究計画などが強く求められるようになってきている。

このような状況下で、機関間および分野間の情報交換、連携を強め、分野全体のコヒーレンスをいっそう高める必要があり、核物理委員会の役割はますます重要になっている。

上記の視点をもって発言、行動し、核物理コミュニティに貢献したい。

推薦者 青井 考 (大阪大学RCNP・教授)

不安定核物理のリーダーとして長く分野を牽引されてきています。大学と研究所に所属する立場として広い視野で核物理分野の進展を常に考えておられ、核物理委員に欠かせない方といえます。

澤田 真也 (KEK素核研・教授)

核物理委員候補者として推薦いただき、ありがとうございます。

さて、昨今、大型加速器での実験を中心とする原子核物理の研究環境は必ずしも順調であるとは言えない状況になっています。十分な運転経費や実験経費がなかなか得られにくい状況にあります。また、私たちはハドロン実験施設の拡張などの将来計画をぜひ実現したいと考えていますが、かかる費用が大きいこともあり、未だ実現していません。一方、例えば、ハドロン実験施設の拡張は設置者であるKEKで優先事項として取り組むとされた4つのプロジェクトの一つとして取り上げられており、そのうちの2つにめどがついたことから、ハドロン実験施設の拡張を現実的に考えられる環境にあることも確かです。私たちは、大学院生を含む若い方々を中心とした研究者の皆さんの皆さんのびのびとタイムリーに実験研究を行える環境を整え、加速器施設の将来計画を実現するために、KEKや理研、RCNPのような基幹的な研究機関と大学の研究者がともに知恵を絞って、我々のフィールドの研究の魅力と重要性を世間に訴えていくことが必要だと考えています。核物理委員会はその中核となるべき場所ですので、委員となった場合には進んで活動していきたいと考えています。

ハドロン実験施設はコミュニティに支えられて初めて存在しえる実験施設です。また、コミュニティの研究者に研究の環境を提供する役目を担っています。私はKEK素核研に所属しハドロン実験施設での活動を取りまとめる立場にいますが、コミュニティを代表するといえる核物理委員会とハドロン実験施設が密に繋がり、可能な限りの成果を上げられるよう、微力を尽くしたいと思います。

推薦者 成木 恵 (京都大学理学研究科・准教授)

澤田さんは、現在J-PARCハドロン実験施設のリーダーとして、既存施設の維持のみならず、標的など重要な施設のアップグレードや新規ビームラインの建設などを精力的に進めておられます。一方、実験研究グループ全体を見渡し、今後の当該施設を中心とする原子核およびハドロン物理の発展について大所高所に立った考え方をすることができると考えます。以上から、澤田さんを核物理委員会に推薦します。

推薦者 大西 宏明 (東北大学ELPH・教授)

澤田氏はJ-PARC建設当初から、その建設、運転の責任者として活躍されていた研究者です。現在、核物理コミュニティにとって重要な大型プロジェクトの一つとして、J-PARC拡張計画が議論されています。この拡張計画を推進するために、拡張計画を知り尽くしている澤田氏が核物理委員であることはとても重要であると考え、澤田氏を推薦いたします。

推薦者 田村 裕和 (東北大学理学研究科・教授)

澤田さんは、原子核分野の最優先将来計画であるJ-PARCハドロン施設拡張について、中心的な立場で検討を進めてこられた。現在、この計画の実現の可能性が出てきたことから、コミュニティと実施機関の連携のため、澤田さんには是非とも核物理委員会に加わっていただきたい。

推薦者 野海 博之 (大阪大学RCNP/KEK素核研・教授)

澤田氏はJ-PARCハドロン実験施設の保守・運転チームを率いてこられ、KEK, J-PARCの運営に貢献されている。現在、大型計画のロードマップ2020の策定が進められているところであるが、推進すべき重点計画にリストされているハドロン拡張計画の実現に向けて、氏はキーパーソンである。分野の基幹施設であるJ-PARCを充実させることが、核物理分野の将来に重要と考えるので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

須田 利美 (東北大学ELPH・教授)

大学附置加速器施設所属の研究者としての視線から貢献をしたいと考えています。

私が所属する電子光理学研究センターは、全国共同研究・共同利用拠点として原子核物理を含む様々な分野の研究者に広く利用されています。原子核関連では、電子線・ γ 線による原子核実験研究とともに、多くの検出器開発・性能テスト実験を通じて大型加速器施設で展開される最先端の原子核研究を支えています。同時にこれらの実験は、将来の原子核研究を支える大学院生や若手研究者の育成の場にもなっており、当センターの電子加速器は原子核コミュニティの貴重な財産であると考えています。

しかしながら、他の大学所属の加速器施設同様に当センターの加速器は、更新や高度化はおろか現状維持もままならない厳しい予算状況で運転を継続しています。共同利用拠点である当センターを安定に維持しさらなる発展につなげるには、当センターでしか実施できない特徴ある優れた研究の提案・推進の重要性はちろんのこと、大学や研究所等機関の枠組みを超えた研究コミュニティからの「見える形」での強力な支援が必須と思います。日本が世界に誇る大型加速器施設での最先端の原子核研究推進とともに、それらを学術的・人的に支えつつ裾野の広い原子核研究を推進するためには大学附置加速器施設の将来についてもコミュニティ全体で議論することが重要と考えます。

推薦者 上坂友洋 (理研仁科センター・主任研究員)

電子散乱を用いたユニークな研究で主導的役割を担われています。ELPHという中規模施設で今後どう研究を進めて行くかということ、原子核コミュニティ全体として考える上でも委員会に入っただけでなく必要があると考えます。

推薦者 青井 考 (大阪大学RCNP・教授)

電子散乱を軸として不安定核の電荷分布測定と陽子半径パズルの解決という核物理の重要課題に果敢に取り組まれています。これまでも分野の発展のために理想を掲げて尽力されてきており、核物理委員にふさわしい方といえます。

関口 仁子 (東北大学理学研究科・准教授)

核物理委員に推薦頂きありがとうございます。

委員に選出された際には、原子核物理分野の発展に微力ながら貢献したいと思えます。

現在、日本の原子核物理分野は、世界をリードする研究施設を数多く有する立場にあります。長年に渡って議論されてきた物理が、Made in Japan の成果としてようやく花開きつつある、と感じております。一方、その成果を踏まえ我々は、諸外国との関係も視野に新しい展開を考えて行かねばならない時期であるとも思っており、10数年先の核物理の将来を見据えた議論に積極的に関わりたいと考えています。

また、大学教育に関わる立場から、若手の育成の重要性もひしひしと感じています。昨年度は日本物理学会の領域代表をつとめ、学部生ポスター発表賞を対象とした日本物理学会学生優秀発表賞を開始致しました。様々な形で若手育成の拡充を検討して行きたいと考えております。

推薦者 上坂友洋 (理研仁科センター・主任研究員)

少数核子系の研究において活躍されており、今期より核物理委員として貢献されています。核物理分野のジェンダーバランス問題を改善するという視点からも、次期も委員としてインプットをいただきたいと考えます。

田中 万博 (KEK素核研・教授)

核物理委員に推薦していただき、とても光栄に存じます。もしもう一期やらせていただければ、いくつかどうしても仕上げたいこと、めどをつけておきたいことがありますので、それに関して少し詳しく述べさせていただきます。

2019年末までの3年間、ANPhA (Asian Nuclear Physics Association) の議長をやらせていただきました。ANPhAはアジア11か国・地域の核物理コミュニティーの連合体であり、NuPECCやNSACといったヨーロッパ、北米の国家横断的な核物理の連合体に対して、アジアを代表する形で相対している組織です。またANPhAはアジア太平洋物理学会連合会 (AAPPS) の核物理ディビジョンとしての役割を果たしています。先日クチンで開催されたアジア太平洋物理学会では、核物理分野のプログラム編成や進行などに責任を負いました。

そのANPhAの議長を3年間経験して、そこで痛感したのは、やはりANPhAは人的、経済的、あるいは政治的？にまだまだ脆弱で、世界に伍して活動してゆくには、もう少し表裏両面から、メンバー国・地域がしっかり支えていく必要があるということです。特に日、中、韓という主要三か国からの支援はとても重要です。さらに言えば、アジアでは、これから数年の間に、HIAF、RAONといった大型計画が次々に立ち上がって行きます。これらはJ-PARCやRIBFと密接な競合関係にあり、本来はしっかりとした協力関係が結ばれているべきなのですが、なかなか人、物、さらには物理に至るまで、うまく交流が進んでいない状況です。また、これらの最先端施設は、国際公共財として世界の研究者コミュニティーに開かれた施設となるべきなのですが、その方向の努力もまだ緒に就いたばかりです。ANPhA議長として、これまで諸外国との交流のなかで築いてきた関係・経験を生かして、こういったアジアの現状を改善し、アジアが世界からしっかり・はっきり見える状況を作り出したいと考えています。こういった体外活動を行うときに、原子核談話会、核物理委員会の支援は必須であり、みずからが核物理委員であることは重要であると感じています。

どうかよろしくお願いします。

推薦者 永江 知文 (京都大学理学研究科・教授)

田中氏は、これまでANPhA議長としてアジアにおける原子核コミュニティーの活動を推進するとともに、その立場でヨーロッパのNuPECCにも出席して我が国と諸外国との交流に尽力されてきている。ひきつづき国際的な視点から核物理委員会において活動していただくことが不可欠である。

推薦者 小沢 恭一郎 (KEK素核研・准教授)

田中万博氏は、これまでにKEK-PSとJ-PARCのハドロン実験施設のリーダーとして類まれなリーダーシップを発揮し、多くの物理成果の創出に貢献されてきました。さらに、近年は、アジア核物理協議会 (ANPhA) のチェアとして国際的にも活躍されています。これらの活動は、余人をもって代えがたく、核物理委員として推薦します。

推薦者 田村 裕和 (東北大学理学研究科・教授)

田中さんは、ANPhA (アジア核物理連合) の議長、NuPECC (ヨーロッパ核物理協力委員会) の委員として、アジア太平洋地域の核物理・加速器計画の情報集約と広報に尽力してこられた。アジア・ヨーロッパ等の核物理の研究所の動向にも精通しており、将来の加速器計画の議論のために核物理委員会に加わっていただくことが必要である。

田村 裕和 (東北大学理学研究科・教授)

日本の核物理研究は、J-PARC, RIBFなどの素晴らしい施設によって世界をリードしてきましたが、電気代等の運営費不足と、J-PARCとRIBFの高度化計画の実現の遅れのため、今後日本の優位性が失われていくのではないかと心配しています。さらに、応用研究の重要性ばかり強調され、基礎科学研究全体への国や社会の支持が低下しつつある状況にも危機感をもっています。こうした問題の解決は困難ですが、最終的には、国民からの広く強い支持が得られるような研究やプロジェクトは、予算が付き若者も集まり、発展していく、ということは間違いのないと思います。

これまでも、核物理委員会はパンフレット作成などの広報活動を行ってきましたが、原子核物理分野の価値と魅力を国民に伝えるための活動にもっと徹底的に取り組む必要があると思っています。核物理委員として微力を尽くしたいと思っています。

推薦者 野海 博之 (大阪大学RCNP/KEK素核研・教授)

田村氏はストレンジネス核物理の分野を主導する世界的権威である。最近まで、核物理委員長として「日本の核物理の将来計画」の策定に尽力されてこられた。学術の大型計画に関して、日本学術会議の関連する分科会委員会等に参画されておられる。将来計画の具体化に向けて、引き続き、核物理分野をけん引していただきたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

推薦者 田中 万博 (KEK素核研・シニアフェロー)

田村さんは我が国を代表する実験核物理学者であり、また核物理委員長、学術会議委員、学術審議会委員なども歴任・兼任されるなど、我が国の原子核物理を強力にけん引されています。このように名実ともに兼ね備わっている田村さんに、引き続き核物理委員をお願いしたいと思います。

永江 知文 (京都大学理学研究科・教授)

私が核物理委員会委員となってこれまで、J-PARCハドロン施設の拡張と理研RIBFの性能向上を2つの研究の柱として進めてきました。現在、学術会議マスタープラン2020とこれに続いて文科省でもロードマップの改訂が行われるところです。回りの状況は決して甘くはありませんが、大きなチャンスと思われます。何とかこれらの大型施設計画の目処をつけるところまでやり遂げたい所存です。

先にまとめられた原子核の将来計画レポートは、次世代の若手に引き継ぐべく改訂をしているところです。大いなる夢を語り合える研究者コミュニティであり続けたいものです。基本となるのは、我々研究者の研究への熱意であり中でも若手研究者の夢実現への情熱です。

アジア、ヨーロッパ、北米を含む海外の研究者とも協力して核物理委員会の国際化にも取り組みたいと思います。

推薦者 成木 恵 (京都大学理学研究科・准教授)

永江さんは、ストレンジネス核物理の第一人者として分野を牽引して来られました。また現在は、日本物理学会長、核物理委員長としてコミュニティを代表しておられます。申し上げるまでもなく、今後の委員会にとっても欠かせない方です。永江さんには引き続きこの分野を牽引して頂きたいと考えますので、核物理委員に強く推薦します。

推薦者 田村 裕和 (東北大学理学研究科・教授)

永江さんは、日本の核物理分野を代表する一人であり、核物理委員長としてこれまでさまざまな課題に精力的に取り組んでこられた。物理学会の会長も務めている。核物理委員会に不可欠な方である。

推薦者 野海 博之 (大阪大学RCNP/KEK素核研・教授)

永江氏はストレンジネス核物理の分野を主導する世界的権威である。核物理委員長に就任されて、J-PARCのハドロン拡張計画を実現する具体的な戦略の策定を主導されておられる。10年、20年以降を見据えた核物理の発展に、氏の深い洞察と高い見識が必要である。引き続き、お力を発揮して頂きたいので、核物理委員の候補者として強く推薦する。

推薦者 田中 万博 (KEK素核研・シニアフェロー)

永江さんは我が国を代表する実験核物理学者であり、また核物理委員長として我が国の原子核物理をけん引されています。同時に日本物理学会会長として、我が国の物理学全体の代表でもあります。このように名実ともに兼ね備えた永江さんに、引き続き核物理委員をお願いしたいと思います。

中村 哲 (東北大学理学研究科・教授)

核物理委員に推薦いただきありがとうございます。

これまで日本の核物理将来計画WG、J-PARCハドロンホール拡張計画の議論に参加し、また次回の日米物理学会合同核物理分科会の日本側Chairも担当することになりました。これまで、このような形で日本の核物理コミュニティに僅かながら貢献してきました。

科学予算、高等教育に関する予算が厳しくなる中で、世界の最先端で研究を推進している日本の核物理コミュニティが今後も最先端で研究を推進できるようにするために、核物理委員という責任ある立場でコミュニティの発展にこれまで以上に貢献できれば、とても嬉しく思います。

大学に籍を置く者として次世代の研究者をどのように育成していくか、またこれまで国内外の加速器施設において研究を推進してきた経験を活かして日本の核物理研究をどのように牽引、発展させていくかについて、積極的に貢献できるよう努力したいと思います。

推薦者 永江 知文 (京都大学理学研究科・教授)

中村氏は、米国ジェファーソン研究所やドイツ・マインツ大などでのストレンジネス核物理の研究を中心として世界的に活躍する当該分野を代表する中堅研究者である。今後物理学会の領域委員としての活躍が期待されるところでもあり、核物理委員に強く推薦する。

中村 隆司 (東京工業大学理学院・教授)

日本の核物理コミュニティはRIBFとJ-PARCという世界に冠たる研究施設のおかげで先端的な研究にアクセスしやすい環境にあるのですが、一方で研究者や学生さんが本当にやりたい研究ができているのか最近疑問に思うことがあります。大きなプロジェクトやメインストリームに乗って研究を行うことも物理学の進展のためには重要ですが、核物理コミュニティの一人一人がそれぞれのアイデアにもとづく多彩な研究を、好奇心ドリブンで進めることの方がより重要です。抱負としては、小粒でもピリリと辛い研究がきちんと評価され、予算がつき、実験が進むような環境作りに、(研究所に属さない) 大学教員を代表する者として取り組んでいきたいと思います。

一方、核物理委員会は(私も含めて) 高年齢化が進んでいます(今チームはほとんど50代-60代)。シニアメンバーは、豊富な経験をもち、大型加速器施設の運営や国際的組織での活動にも関わるなど、核物理委員会で重要な役割を果たしているのはもちろんのことではあります。その上で30代-40代の若手が核物理委員会にもっと参加できる仕組み作りを、核物理委員の次のチームでは提案し、実現したいと考えます。次世代の大型施設の計画に、若手が積極的に関与できる環境作りに取り組みます。

推薦者 上坂友洋 (理研仁科センター・主任研究員)

中村さんはRIBFのSAMURAI共同研究グループの代表者として世界を主導する研究を行われており、また現在では新学術研究の代表者として原子核を中心とした学際研究を率いておられます。大学教員の視点で、大型施設での研究・プロジェクト推進について貴重なご意見をいただけると思います。

推薦者 青井 考 (大阪大学RCNP・教授)

中村氏はRIBFにおける研究の柱の1つであるSAMURI計画を牽引してこられ、次々と重要な成果を上げられています。国内では大型科研費の代表者として辣腕を振るわれる一方で国際的な認知度も高く、原子核分野における中心人物の一人といえます。現核物理委員としても鋭い視点からの貴重な発言が多く、今後も引き続き活躍して頂くべく次期委員に推薦いたします。

野海 博之 (大阪大学RCNP/KEK素核研・教授)

現在、大阪大学とKEKに身を置き、J-PARCのハドロンビームを利用した新しいハドロン核物理の共同研究プラットフォームの構築を目指しております。J-PARCは、徐々に出力を上げ、一定のビームを得て、いくつか重要な実験成果を輩出しつつあります。今年度、高運動量ビームラインのコミッショニングも始まり、新しい研究展開も期待されるところです。

現在は、学術の重点的大型計画のマスタープランに乗っているハドロン拡張計画に関連して、2020ロードマップの議論が行われています。前回の2017ロードマップには載らなかったもので、拡張計画は正念場を迎えていると言えます。J-PARCの持つポテンシャルを最大限に活用し、核物理研究の将来を切り開くために、ハドロン拡張計画をなんとしても実現したいと考えます。

選出されましたら、大学と共同利用研究機関の両立場に立った経験を活かし、核物理の発展に微力を尽くす所存であります。

推薦者 小沢 恭一郎 (KEK素核研・准教授)

野海博之氏は、これまでにKEK-PSやJ-PARCのハドロン実験物理を高い見識から強く推進し、多くの物理成果をあげられています。また、ハドロンホール拡張や高運動量ビームラインのアップグレードに中心的な役割を果たされており、核物理委員会での将来計画を検討するうえで、余人をもって代えがたく、核物理委員として推薦します。

和田 道治 (KEK素核研 和光原子核科学センター (WNSC)・センター長)

核物理委員に推薦いただきありがとうございます。核物理委員を一期務めさせていただきましたが、前回の抱負に記した目標を成し遂げることが出来なかったことを反省いたします。委員会の目的であろう、実験核物理分野の方向性をリードし、他分野との折衝により陣地の確保と拡大という点に置いては現状はかなり足りていません。実験核物理学はかなりの部分で加速器施設に依存しており、それは一般的な科学研究に比べて大規模な経費を必要とするものです。しかしいわゆるビッグサイエンスのような、他分野や一般社会でも認知して貰えるような明瞭な題目が無いことが、共感や支持を得ることの難しさに繋がっていると感じています。それに対して徒手空拳でお題目を掲げるのではなく、基礎物理問題から学際領域・社会への応用まで含めた多種多様のスモールサイエンスが、原子核物理学という共通基盤のもとに、アメーバの様に拡大・発展していくのが良い方向だと考えます。そういう小規模ながら意欲的な研究を支持して行く所存です。

推薦者 宮武 宇也 (KEK素核研・教授)

和田氏は、低速短寿命核による精密核分光や精密基礎科学、あるいは不安定核による天体核物理、原子核物理の広範な領域で活躍されて来ました。またKEK和光原子核科学センター長として、共同利用、国際共同研究を積極的に展開し、国内外の人材育成にも尽力しています。今後の核物理の発展に際しては、和田氏のような現場感を伴う研究・開発への視点が重要です。氏の手腕が、核物理委員会の中でも大いに発揮されるものと期待します。
